

3.11→

4.14-16

アート・建築・デザインでつながる

東北⇄熊本展

熊本市現代美術館では、ギャラリーⅢにおける115回目の企画展として「3.11→4.14-16 アート・建築・デザインでつながる 東北⇄熊本」展を開催致します。

2016年4月14日、16日に熊本を襲った大地震から1年。熊本は少しずつ復興に向けた歩みを続けていますが、災害時において私たちを勇気づけてくれた活動の一つが、東北を中心とする東日本大震災での経験を元にした、アートや建築、デザインによる様々な復旧・復興活動です。

本展では、それらを介して、東北から熊本へもたらされたアイデアや繋がりについて振り返り、その起点となった阪神・淡路、中越などへも思いをはせると同時に、再びこの世界のどこかで生まれる「未来の被災地」に向けた発信を行います。

みんなの家



くまもとアートポリス

東日本大震災において、建築家の伊東豊雄は、被災者が精神的な安らぎを感じられる空間「みんなの家」を発案し、2012年のヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で金獅子賞を受賞した。その後、熊本地震を受けて、伊東がコミッショナーを務めるくまもとアートポリス（KAP）の事業として、熊本県が中心となり、県下の仮設団地においても「みんなの家」が建設されている。本事業では、県内外の建築家が被災地における新たなコミュニティの在り方を探り続けている。



避難所用・紙の間仕切りシステム（PPS4）



ボランティア・アーキテクト・ネットワーク、慶應義塾大学 SFC 坂 茂 研究室、熊本大学 田中智之研究室、熊本の建築家有志

2004年の中越地震をきっかけに、建築家の坂茂は、避難所で長期間にわたる生活を強いられる被災者に対して、プライバシーを確保するための、紙管とカーテンによる間仕切り（Paper Partition System / PPS）をデザインした。PPS4は、東日本大震災などでの改良を経て、紙管をフレームとして用い、布を簡単に掛けるだけで組み立てることができる。基本ユニットは 2m x 2m だが、グリッド状にいくらかでも拡張し、避難者の健康状態の確認や、避難所を衛生的に保つことができる。2016年にグッドデザイン賞金賞を受賞した。

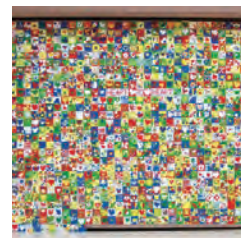


ハートマーク・ビューイング



日比野克彦／「Hitachi Systems HEART TO HEART」

アーティストの日比野克彦が東日本大震災において、避難所や仮設住宅を癒しや心の温かみを感じる空間へと変化させるべく「愛」「気持ち」「ここ」をイメージする「ハートマーク」を被災者とともに制作し、また被災地のことを思う人々と気持ちの交流を続けていくプロジェクトである。本プロジェクトは東京の FM ラジオ局 J-WAVE の復興支援番組「Hitachi Systems HEART TO HEART」のプロジェクトとして継続されている。今回は、東北の方々が熊本を思っって作った「ハートマーク」をギャラリー内に展示し、自由に制作・交換できる空間を作り出す。



宮城熊本 伝えるアートプロジェクト



村上タカシ／MMIX Lab.

熊本出身で仙台在住の美術家・村上タカシを中心としたプロジェクト。村上は、現在も東北で 3.11 メモリアル桜プロジェクトや震災遺構の保存、おしるこカフェ、伝える学校、復興住宅に住む 88 歳のラッパー Tatsuko★88 の「俺の人生」CD 制作など、アートをベースに様々な活動を行う。熊本地震では、本震発生後、すぐに支援物資とともに熊本入りし、復興支援や学習支援などの活動を実施。東北と熊本をつなぎながら 10 年単位で活動を実施することを目標としている。



未来龍熊本大空風



遠藤一郎

“未来へ”というメッセージを伝えるため、2006 年より『未来へ号』と名付けた車で各地をまわるアーティスト・遠藤一郎。その車体には、行く先々で出会った人々を書き込んだ“夢”で埋められている。2011 年 5 月には岩手県大船渡市にて、炊き出しや餅つき、綱引き、さまざまなワークショップ、大船渡の伝統芸能などを交えた『やっべし祭』を開催。また、宮城県石巻市の商店街のシャッターに絵を描き、岩手県釜石市や福島県福島市で風あげプロジェクト『未来龍大空風』などを実施。2012 年の熊本市現代美術館 10 周年の際にも熊本各地で風あげを行った。熊本地震後、再び、熊本の各地で人々の“夢”をのせて風あげを行う。



KUMAMOTO

TOHOKU ⇄ KUMAMOTO
TSUNAGARU